

平成30年 3月

森尾慶子 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久
副主査 藤 原 義 之
同 磯 本 一

主論文

Expression of doublecortin and CaM kinase-like-1 protein in serrated neoplasia of the colorectum

(大腸鋸歯状腫瘍におけるダブルコルチン及びCaMキナーゼ様1蛋白の発現)

(著者：森尾慶子、八島一夫、田本明弘、細田康平、山本宗平、岩本拓、上田直樹、池淵雄一郎、河口剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成30年 Biomedical Reports 8巻 47頁～50頁

参考論文

1. Association of clinical features with human leukocyte antigen in Japanese patients with ulcerative colitis

(日本人の潰瘍性大腸炎患者におけるヒト白血球抗原と臨床的特徴の関連)

(著者：岩本拓、八島一夫、森尾慶子、上田直樹、池淵雄一郎、河口剛一郎、原田賢一、磯本一)

平成30年 Yonago Acta Medica 掲載予定

審査結果の要旨

本研究は内視鏡的に切除された大腸鋸歯状病変（hyperplastic polyp、traditional serrated adenoma、sessile serrated adenoma/polyp）について、DCLK1タンパク発現を免疫組織化学にて検索し、非鋸歯状腺腫、腺腫内癌、腺腫成分を伴わない早期癌（純粹癌）と比較検討したものである。その結果、serrated pathwayを経由する腫瘍化ではDCLK1発現が低頻度であったこと、純粹癌にはadenoma-carcinoma sequence由来とserrated pathway由来のいずれの腫瘍も含まれる可能性があることが示唆された。本論文の内容は、adenoma-carcinoma sequenceとserrated pathwayの発癌機序の違いを示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。